

第22回富山県生涯学習審議会議事録

- 1 日時 平成27年3月24日(火) 10:00~11:30
- 2 場所 県民会館304号室
- 3 出席委員 中西会長、麻畑委員、荒井委員、磯野委員、稲葉委員、尾谷委員
経田委員、小路委員、瀬戸委員、勢藤委員、舘野委員、服部委員
藤田委員、毛利委員、藪委員、山下委員、和田委員
- 4 議事
 - (1) 報告事項 「本県の生涯学習施策の概要等について」
 - (2) 協議事項 「本県における生涯学習・社会教育について」
 - (1) 生涯学習の推進
 - ・生涯学習支援施設の利用向上のための方策について
 - ・その他 生涯学習について
 - (2) 学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援
 - ・地域人材の活用について
 - ・その他 社会教育について
 - (3) その他

◎ 生涯学習支援施設の利用向上のための方策について

【会長】

今ほどは生涯学習の推進ということで、「生涯学習支援施設の利用向上のための方策について」ご説明があったが、この観点を中心に皆さんからのご意見をいただきたい。

【委員】

県民カレッジの自遊塾で「ほほえみスマイルパワーアップ」という講座を担当している。学習の方も、鍛える文化からもう褒める文化に入っていると思っている。色々な講座があるが、なかなか広がらないというのは、外に発信した時に、外からの評価がもらいにくい面と、自分から発信したい時に、楽しさや良さということが出にくい面があるからだ。自遊塾の受講者は増えてはいるが、毎回同じ人でその輪が広がっていかない。

その原因として、場所を変えていないことである。いつも同じところで行っており、ある程度の期間を過ごしたら、違う場所で講座を行うという対応が必要である。また、例えば発表の場を3つの公民館合同で行い、3ヶ所巡ると広がっていくのではないかと。

学びたいという意欲は、年齢の高い方はあるが若い方がなかなか難しい。ただし、若い方は学んでいないわけではなく、富山で「朝活」というものが大変活用されている。出勤前に学んで、そこで一回元気をつける、あるいは朝礼のネタをそこで探して得て、仕事に行く。

以前、県民カレッジは暁天講座をされていたが、朝早くからでも集まりたい人たちもいるということを考えて、利用時間など広がればよいと思っている。

【会長】

先ほど「県民カレッジ、全国の先端」というお話があったが、その先端を引っ張っているらっしゃる県民カレッジよりご意見をお願いしたい。

【委員】

利用向上のための工夫ということであるが、基本となることは県民の皆さんの学習ニーズに沿った講座を展開することと思っている。どのような方に講師になっていただくか、あるいはテーマにしても、いわば生涯学習の不易となる文化や歴史の部分とあわせて、その都度、県民の皆さんの関心の高いこと、例えば高志の国文学館ができれば、高志の国文学啓発講座を開設したり、あるいは今年は新幹線開業を目前に控えているということで、富山の魅力を再発見しようというテーマの講座も行った。講座終了後、皆さんからアンケートをとって、ご希望なり意見を聴取して、できるだけご要望に沿いたいと思っている。

特に近年は、「人材を育成する」講座を重視している。典型が自遊塾であるが、そのほかにも高志の国文学専門講座「活用実践コース」がある。人材を育成する目的で、専門の方自らが講座の講師になっていただくことを目指している。自遊塾の講座数も年々増加しており、急速に自ら教えたい、伝えたいという方々が育っていることを大変うれしく思っている。

また、どのような講座や企画があるか知っていただくことが基本だが、チラシ、パンフレット、冊子など内容に応じて関係市町村、大学、公民館等へ置かせていただき案内をしているが、昨年度から退職教員の会員の方々に、自宅まで届けるネットワークを利用している。

今後は民間の企業にもそのようなネットワークがないかどうか調査して、大いに活用してお伝えしていきたいと思っている。

二つ目は、「学遊ネット」つまりインターネットを通じての発信である。これは県民カレッジばかりではなく、本県の生涯学習に関するあらゆる情報を収集して発信しており、25年度は75万件ほどのアクセスがあった。

三つ目は、生涯学習団体協議会や雷鳥会、自遊塾の各団体の方々が口コミで受講者等を募っておられ、大変ありがたく思っている。

【会長】

県民カレッジには、受講者という大きな塊もあるが、それとは別に生涯学習団体という学びのグループを組織したものもある。その立場で今の議題についてお願いしたい。

【委員】

資料No.7の10ページの下の方に載っているが、県民カレッジから「富山県生涯学習団体協議会」に委託をいただいて講座を開いている。

しかし、その受講生がだんだん高齢化していること、同じ方が毎年受講することがあり、新しい方をどのようにして増やしていくか毎年役員一同検討している。

その1つの方法として、新川地区、富山地区、高岡地区、砺波地区の4つのグループで、年一回交流会を開き情報交換をしている。

また、グループ団体同士でお互いに聞く場を設けて情報交換をしている。今後も情報交換をして、一人でも新しい方を増やすように努めていきたいと思っている。

【会長】

受講者、学習者の高齢化あるいは固定化という話があったが、どうだろうか。

【委員】

日頃から、本学富山大学の公開講座を県民カレッジとの連携講座としている。また、本学は正規授業を社会人に公開している。講座数は、全国でとても多く公開していることで知られている。目標は1,000講座を目指している。講座で本学の若い現役の学生と一緒に大学の講義を受講している方は、90代の方まで幅広くおられ、とても和やかな雰囲気を受講している。特にこの正規授業公開（「オープンクラス」）は、受講生はとても熱心に話を聞いていただいている。その背中を見ながら、本学の学生がとてもいい刺激になっている。

本学の公開講座は、今年度からオープンクラスの単位化というところでご協力いただいている。一つ一つ「単位」という形で数字として表れてくるのがとても励みになり、今後も続けさせていただきたい。

今後、この生涯学習を進めていくためにはオーダーメイド型生涯学習ということで今文部科学省は進めている。

個々人の学びをどのように豊かにしていくのか、またそれが収入を得るため、就活、それからまた豊かな人生を築くため、また資格を取得するためという形で、いろんな形の学び合いということが今問われている。富山大学としては、高等教育機関として、入り口のきっかけづくりから、ステップアップしていき専門分野まで地域と連携していきたいと考えている。

生涯学習支援施設の利用の向上について、富山県が取り組んでいる広域学習サービス連絡会議がとても大きな力になると思っている。あらゆる生涯学習機関が連携をとりながら、今必要なこと、どういうことを行っているのか、今後どういうことに取り組むのか、それぞれが学習者からのアンケート調査など、今後について協議していただき、豊かな生涯学習という形で推進していけるのではないかと考えている。

今、生涯学習に取り組んでいる方はとても大勢いる。「今、潜在的に学びたい」、しかしどうしたらいいのかわからないという方々に対し、学習機会の情報と学習機会の場を本当に多く提供するということがやはり生涯学習支援施設の今後の事業上の向上につながっていくと考える。

若い世代の方がもっと多く公民館を利用していただくこと、生涯学習の学びの場があることを、やはり多くの情報を得る機会があるのではないか。それが生涯学習推進の一つの鍵になっていくと思う。

富山県はやはり教育県として、生涯学習をととても全国的にも推進している県である。今後も継続して推進の方策を模索しながら積み上げていくということがとても大切ではないかと思う。

【会長】

放送を通じて学びの拠点として放送大学富山学習センターよりご意見をお願いしたい。

【委員】

今回お渡しいただいた資料の中に「放送大学」という言葉が入っているが、実際は全国の放送大学の学生数は現在9万人で、10万人を目指している。富山は現在900人の学生が登録している。放送大学の場合には、ある単位を取ると、学位がもらえる。

放送大学学園法に基づいて放送大学はできているが、近年、生涯学習に積極的に来る年齢層が非常に高齢化している。残念ながら若い人たちがあまり来ないが、資格が取れるということになると、非常に多くの若い人たちが積極的になる。

保育園をやっている方々がここのある教育課程を取ると、今度は幼稚園の教育担当になる。若い人たちが非常に積極的にそういう講座を聞きたいと加入している。

心理学関係が圧倒的に人気の高い科目である。理由として、その科目を修得すると「認定心理士」資格を取ることができる。よって資格を取りたいという方が多い。県民生涯学習の中で、やはり目標として何かの資格が取れることが非常に大事であると思う。

【会長】

ここまで、一つ目のテーマである「生涯学習支援施設の利用向上のための方策について」ご意見をいただいた。

次は、未来を担う子供たちが活躍する場を提供している団体の代表の方より、国立、県立含めて青少年自然の家があるが、利用等も含めてご意見をいただきたい。

【委員】

多くのボーイスカウト、ガールスカウトの指導者から「大人の宿泊料金が高いのではないか」という意見を聞いている。これは指定管理の制度が設けられてから、旧の料金からほぼ倍額ぐらいになっている。近隣の施設と比較しても高い料金設定になっている。

砺波青少年自然の家は、閑散期のみキャンペーンを行っており、安く利用できるような時期もあるため、呉羽、砺波ともこの大人の宿泊料金を少し改善していただきたい。

現在ボーイスカウト、ガールスカウトも極力、宿泊をする指導者を少な目に日帰り通いで体制を整えている団もあるので、お願いしたい。

冬用のテントとシュラフが砺波と呉羽にも国立立山青少年自然の家のように用意がしてあれば、もう少し身近な距離にある両施設で冬のキャンプ体験ができるため、資材の調達をしていただければ、県外のまた青少年の団体も他県の利用にも少しPRができると考える。

ファミリーキャンプが幼いときからできればと思っており、自然に触れ合うことが大人になった時に非常に役に立つため、その部分のPRもしていただければと思っている。

【会長】

芸術の方で生涯学習の振興に貢献していただいている県芸術文化協会から青少年の教育等についてお願いしたい。

【委員】

芸文協では、違った分野の人との交流を大切にし、刺激を受けながら発表する場を提供している。自分が人に見てもらふことは、大きな刺激になり技術を磨かねば人の心に訴えるものが出ないので、大変熱心に皆さんは頑張っていると思う。

私の専門分野（舞踊）は、子供も3歳ぐらいから大体20歳ぐらいまで、20歳以上もいるが、基礎訓練から始まり、自分を表現するところまで指導している。時間がかかり、すぐに効果は出ないが、舞踊を通じて人間形成を目指している。

私自身、高齢者のために教室を持っている。北日本新聞のカルチャー教室の講師もさせていただいているが、一つ一つクリアする喜び、人と人とのつながりが大事だと思う。

先ほどの話の中で、講座が山ほどあり、それぞれの講座で新しい人を、入会する人を探すために一生懸命やっておられるが、一年に一回ぐらい、興味を持って集まってきた人をレベルの高いところから誘い入れるのではなく、簡単なことから誘って入れるように、講座のフェスティバルのように県民会館のさまざまな教室に出させていただき、教室を簡単な初心者用教室で見学体験をする場を提供することも良いと思う。

【会長】

行政の方でも生涯学習について一生懸命取り組んでいる富山県だが、一方では民間という立場でもいろいろなところで展開されている。是非ご意見をいただきたい。

【委員】

本格的に富山でカルチャー教室（文化センター）を始めて、今年で20年になるが、やはりレベルの差が出てきている。

さまざまなレベルに対応できるように、絵画で言えば、来年からまた初心者のデッサン教室を取り入れるなど配慮している。

民間のカルチャーセンターは、多少なりとも収益性を意識してなるべく著名な講師、人気のある講座とは何かを考えてしまうが、行政や大学で実施している講座、例えば語学、地域文化の研究などが富山県では学べる状況になっている。民間のカルチャーとしては、民間のフレキシブルなところを生かして、行政ではやり得ないジャンルにもチャレンジする必要があると思う。

「民間でない」とと思われるものが多々あるが、しっかり探して研究していきたいと考えている。

また、皆さんが生きがいを感じてやれることと、交流の場や発表の場を提供することがカルチャーには不可欠であると思うので、努力して進めていきたいと思っている。

【会長】

「民間ならでは」というご意見をいただいたが、経済同友会でも教育問題を取り扱っておられ、企業のほうの立場でご意見をお願いしたい。

【委員】

講座のリピーターが多いという話何人かの方から出たが、やはりそのハードルを感じない人が入れたのだと思う。

実際に仕事をしていて、時間もある程度縛られる中で、場所的なものや時間的なものなどハードルがあるかもしれない。もっと楽しくて、自分から行けるような機会をつくるために、先ほどフェスティバルを開いたらどうかという話があったが、とても入りやすいと思う。

◎ 地域人材の活用について

【会長】

2本目の柱として、特に「地域人材の活用」に観点を絞っての説明があり、この観点から、委員の皆さんから提言やご意見をいただきたい。

今ほど説明あった中に、放課後子ども教室、あるいは今年始まった土曜学習推進事業については学校、特に地域の小学校が大きく関わってくると思う。

地域人材の活用という観点でご苦労されたと思うが、小学校の校長先生のご経験がある委員の方をお願いしたい。

【委員】

放課後子ども教室について、最近の南砺市の放課後子ども教室のことでお話しさせていただきたいと思う。

放課後、週末等で学ぶ意欲のある子供に学ぶ場の提供として、内容もバラエティーに富んでおり、南砺市という地域柄も十分踏まえ、大変多く取り組まれているように思う。

この運営については、各学校区の地域の総合型スポーツクラブ等、運営をいただいているという状況で、平日においては、低学年を主に対象として取り組んでいる。

週末には、南砺市は小規模校もたくさんあるため、学校全体を考えた中身で運営されている。回数も年間にして、随分と実施していただいております、子供たちも満足して参加しており、保護者の方も大変喜んでおられる実態である。個人的にも、子供たちがより多くの地域の方と触れ合い、いろいろな価値観に触れることはとても大切なことだと思っており、大変良い機会だと考えている。

今後その対象を広げていただけないか、あるいは回数も増やしていただけないかということも希望が多い。

指導者については、地域の方が人材をお願いされているが、同じ指導者の方が何年も指導されていることもあり、次の指導者をどのように確保していくか課題である。指導者の方に、次の指導者の方を推薦していただくことも大事であり、また活動の様子を地域の人にも見ていただくことで事業のPRをしたりするなど、まずは多くの方に知ってもらう何か工夫が要るように思う。

【会長】

先ほどの説明の事業の柱の中に、公民館のこともご説明いただいた。

私は、公民館活動を推進する立場であるが、ここ数年、国から始まって県の方からの補助をいただきながら、ふるさとの自然体験を子供たちにさせているわけだが、各地域のいろいろな団体にお世話になっている。

婦人会にもお世話になっており、地域人材の観点からコメントいただきたい。

【委員】

公民館のふるさと事業については、婦人会等の他団体との連携、ネットワークで開催できるように地区で話し合い、計画を立てて実施している。その人材活用では、豊かな自然体験や、ふるさと歴史探訪などを組み合わせて事業を実施している。講師として得意分野とか造詣の深い方ということで、学校教員のOBの方々に依頼することが非常に多かった。

また、ふるさとの歴史や文化との関係があり、地域で活動している方々を講師とし、その活動の場と交流の場を提供させていただいて活用している。

家庭教育の推進について、3世代同居が大変多い地域だが、家庭教育力の低下が本当に感じられる。特に婦人会のリーダー研修等で県から出されている「親学び」資料を用いて学習するなどして、リーダー養成に力を入れている。婦人会では、家庭教育研究集会等の助言者になっていくように人材養成に努めている。

そして、防災等を学ぶ場合は、県の出前講座などを活用し実施している。

公民館のサークルをしている方々の人材活用だが、公民館を利用してサークル活動している各種サークルの人たちを講師として招いている。公民館でサークルをしている人たちは、高齢者が多く、生きがいを感じて活動している。また、地域の子供たちとの触れ合いの場が広がるということで非常に好評を博している。

今後は、このような人材を次世代につないでいくために、若い人の養成をどのようにしていくか課題である。

【会長】

事務局説明に親学び事業という説明もあった。

この事業については、準備段階からPTA連合会が深く関わっていると伺っている。さらに普及についてもご尽力をいただいているため、ご意見をいただきたい。

【委員】

PTA連合会では、「親学びプログラム」の普及について協力させていただいている。

親学びプログラムは、子供を育てながら親になることを一緒に学んでいく活動をしている。平成25年度に「とやま親学び推進協議会」を設立していただき、親学びの実施率が大変上がっている。現在9割程度の学校で実施しており、参加率が上昇したことに加え、男性の参加が非常に増えてきた。そして、やり終えてからは好評を得ている。お互いに話し合うグループワーク形式をとっており、お互いに思っていることを話し合うことにより、相互が学び合うという成果が得られている。

推進協議会では、現在新しいプログラムの開発に着手しており、またリーダー養成講座として、来年度も大変魅力のある講座を着々と用意している。参加率も「リーダーになりたい」と参加の意思のある方も増えており、ますます親学びは活発化していく状況になっていると思う。

【会長】

先ほど説明があった中のもう一つ、読書活動あるいは図書館活動についてご発言をいただきたい。

【委員】

地域人材のテーマに「活用」という言葉があるが、この「活用」という言葉、人に対して活用とは、ふさわしくない言葉と感じている。

資料にもあるが、図書の支援グループの数、実際に関わっているボランティアの数は非常に多いと思う。

中でも小中学校の朝読書、朝学習の図書ボランティアやその読み聞かせなどである。それから、各市町村の図書館で養成講座を開いており、読み聞かせをする人の養成もしている。学校によってボランティアの募集の仕方が違っており、PTAから募集をして実施するスタイルと、学校側が募集をかけ個人にお願いをするパターンがある。学校がお願いをしている個人の場合は、個人でやりたい人がやっているため、他と交流ができないことを聞いた。

県読書会連絡協議会という団体があると知り、その団体が核となる組織として機能しているのかどうか非常に気にかかる。

PTA、児童クラブ、ボーイスカウトにしても、地域に個々の団体があって、それを取りまとめる県の団体がある。

読書のボランティアをする地域人材が非常に地域の中には幅広く育っているにもかかわらず、その核となる組織が今存在しているのかどうか分からないが、もしそういう組織があれば、「個人でやりたい」「活躍の場をもっと広げたい」と思っている方のために、情報提供ができるのではないかと考える。

【会長】

この柱につきまして、もう少し委員の方から社会教育や生涯学習全般についてお話しただいた上で、事務局からのコメントをいただきたい。それでは、スポーツの普及を通して生涯学習についてご発言をお願いしたい。

【委員】

私たちがスポーツをやっている中で、スポーツの方が好きな子供たちと、スポーツは苦手で、学習が好きだという子供たちがいると思う。常々スポーツと文化的なものと一緒にできる方法がないかと思っている。

先ほど、「総合型スポーツクラブ」という言葉が出ていたが、地域総合型スポーツクラブは、小学校または中学校単位の中で、地域の皆さんたちが自主的に考えて、地域の中に合

ったようなスポーツクラブをする。子どもから年寄りまでみんながそろって行う目的でつくられているスポーツクラブである。

学校開放という形で実施しているところもあるが、スポーツと地域の住民の方が学校施設を利用していただき、1つはスポーツをする、もう1つは地域の方々が集まって文化的なこと（お茶、お花、子供たちと一緒に学ぶ・遊ぶなど）をすると、地域のつながりを目的で考えると、地域総合型スポーツクラブはしっかりできている。

もう1つは、地域の皆さんたちが全部集まって、そこで自分ができることは何かを考え、地域の皆さんと一緒に活動していくことが人間関係を築いていくことになり、とても大切なことであると思っている。体育の施設やクラブなどの団体を利用し、文化的なものと一緒にやってはどうかを提案させていただきたい。

【会長】

次に、労働団体を代表して出席いただいているのでご発言をお願いしたい。

【委員】

労働界代表だが、生涯学習も社会教育も全て網羅して、お仕着せの教育から気づきの教育ということでライフクリエイティブセミナー、20代、30代、40代、50代、全ての世代ごとに、その世代における悩みなど色々話しながら、気づきの教育につなげている。

今日皆さんがお持ちのいろいろな趣味の関係については、我々としては外で2つ、中で2つの趣味を持つように教育している。

趣味が多ければいいが、なかなか持てない人だったら、外で1つ、中で1つ持ってもらうって人生設計を送っていただけたらと思っている。

【会長】

もう一方、ここでは専修学校各種学校連合会の代表、また県民カレッジ友の会「雷鳥会」の会長としてご発言をお願いしたい。

【委員】

先ほど「活用」ということについて、抵抗があると言われたが、何か対案を用意していただいているのかお聞きしたい。

【委員】

「地域人材の活用」ではなく、例えば、「地域人材との連携」といった表現を使ってはどうかということだ。

【委員】

専修学校各種学校の立場からすると、最近の人減らしというか、その対象の最初になるのが私どもの、例えば大工さんと庭師さんを養成する学校を運営させてもらっている。また介護の学校を運営させてもらっている。介護の方はもう人手が足りないらしいが、しかしこの人たちの「人生の将来があまり感じ取れない」「希望が見えてこない」ことに非常に深刻な悩みを持っている。

こういう領域の人たちに「生きがい」をどのようにしてつかんでもらうか私たちの最大

の悩みである。

私どもの学校は、18歳で高卒だったら入れる学校だが、現在は60歳を過ぎた方々が入学してこられるが、若い年齢の方と年輩の方と一緒に学んでいる。そのことを非常に頼もしく感じている。年齢や男女を超えた、何か生きがいのある教育をこういう審議会等で教えていただければありがたいと思っている。

【会長】

本日、出席の委員から多数のご意見をいただき感謝申しあげる。このことを事務局として、いろいろな場で生かしていただきたい。

委員の皆さん方、十分お話しできなかった部分もあるかと思うが、ぜひ事務局の方へお寄せいただきたい。

私から最後をお願いしたい。この生涯学習審議会は5年ぶりの開催であったが、恐らく今まで難しく考え過ぎたのではないかという気持ちがある。ぜひまた定期的を開催してもらうことをお願いして、私の任を終えさせていただくことにする。皆様のご協力に感謝したい。